

# ゴムパッキン材料－性能区分

JIS K6380-2014より抜粋・要約

## ●適用範囲

この規格は、ゴム製のパッキン材料－ガスケット材料・及びこれに類するゴム製品に使用する加硫ゴム材料（以下、ゴムパッキン材料という。）の性能に基づく区分について規定する。

## ●基本性能の区分方法

ゴムパッキン材料の基本性能（耐熱性、耐油性及び耐寒性）の区分方法は、次による。

- 1) 耐熱性 ゴムパッキン材料の耐熱性の区分は、表1による。A～Kの耐熱性の区分は、JIS K 6257の促進老化試験 A法 AA-2強制循環形熱老化試験機（横風式）（ギヤー式老化試験機ともいう。）を用いて、連続72(0,+2)時間熱老化させたとき、表1に示す規定を満足する上限の試験温度を耐熱性の区分とする。
- 2) 耐油性 ゴムパッキン材料の耐油性の区分は、表2による。A～Gの耐油性の区分は、JIS K 6258に規定する方法によって、試験用潤滑油 No.3 油を用い、試験温度 100±1℃で連続 72(0,+2)時間浸せきしたときの体積変化率から規定する。
- 3) 耐寒性 ゴムパッキン材料の耐寒性の区分は、表3による。A～Hの耐寒性の区分は、JIS K 6261に規定する50%衝撃ぜい化温度による。

表1－耐熱性の区分

耐熱性	試験温度 <sup>a)</sup> ℃	耐熱性		
		引張強さ変化率	伸び変化率	硬さ変化
A	70	±30%以内	-50%以内	±15以内
B	100			
C	125			
D	150			
E	175			
F	200			
G	225			
H	250			
J	275			
K	300	試験方法 JIS K 6251	試験方法 JIS K 6251	試験方法 JIS K 6253-2,3

注 a) 試験温度は、促進老化試験時の温度であるので、必ずしも実使用時に耐える温度の意味ではない。実使用時のゴムパッキン材料選定には、用途、使用環境、使用設備などを考慮した総合的な判断が必要である。

表2－耐油性の区分

耐油性	体積変化率の範囲 <sup>a)</sup> %
A	140を超えるもの（または規定せず）
B	121～140
C	81～120
D	41～80
E	21～40
F	0～20
G	0を超えないもの（体積変化率が負のもの）

注 a) 体積変化率の範囲には、油の吸収による膨潤又は油の抽出による収縮を含む。

表3－耐寒性の区分

耐寒性	50%衝撃ぜい化温度 <sup>a)</sup> ℃
A	0
B	-10
C	-25
D	-40
E	-55
F	-70
G	-85
H	規定せず

注 a) 衝撃ぜい化限界温度については、受渡当事者間の合意によって追加記号“F”の追加性能で規定することができる。

●物理特性の区分方法 物理特性に対する表示区分を、表4 に示す。

表4ー物理特性の表示区分

硬さ		引張強さ		切断時伸び		圧縮永久ひずみ	
表示数字	タイプAデュロメータ 又はIRHD (N法) の許容値	表示数字	(最小) MPa	表示数字	(最小) %	表示数字	(最大) %
設計値 (2桁の整数)	±5以内	0	規定せず	0	規定せず	0	規定せず
		1	3	1	50	1	80
		2	5	2	100	2	60
		3	7	3	150	3	50
		4	10	4	200	4	40
		5	14	5	250	5	30
		6	17	6	300	6	25
		7	20	7	400	7	20
		8	25	8	500	8	10
		9	35	9	600	9	5
試験方法 JIS K 6253-2,3		試験方法 JIS K 6251		試験方法 JIS K 6251		試験方法 JIS K 6262	

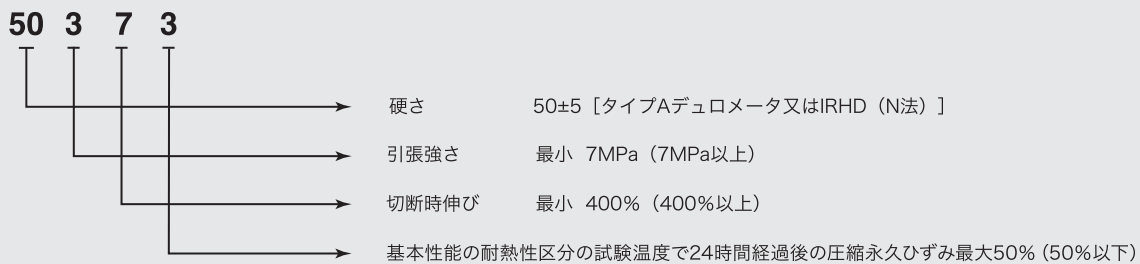


図4ー物理特性の表示例

3-4 ゴムパッキン材料の性能区分の表示例

ゴムパッキン材料の性能区分の表示例を、図5に示す。

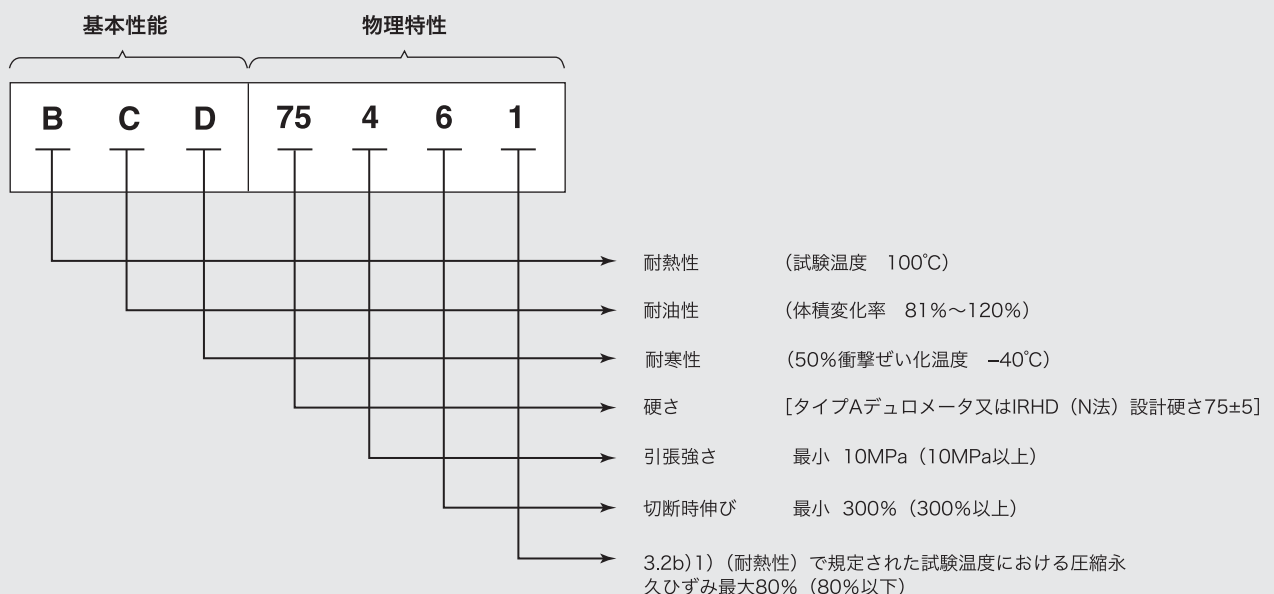


図5ーゴムパッキン材料の性能区分の表示例